

吉川浄水場耐震対策について

1. 耐震診断

平成22年度～平成25年度 耐震診断を実施

表1 耐震診断結果

浄水場等名称	耐震診断結果(※レベル2地震)	応急復旧必要期間
吉川浄水場	液状化して構造物浮上等の甚大な被害。	約4か月
馬淵浄水場	構造物に局所的な被害。液状化なし。	約1か月
水口浄水場	同上	約1か月
南津田導水ポンプ場	場内配管の損傷、ポンプ棟の損傷	約10日間
朝国導水ポンプ場	沈砂池の軽微な被害	約10日間

※レベル2地震：琵琶湖西岸断層帯地震、南海トラフ巨大地震に相当する地震

2. 耐震対策規模

レベル2地震発生時に各受水市町が必要とする水量に基づき、新施設規模を設定(30,000 m³/日)

施設新設と、馬淵浄水場および水口浄水場からの連絡管による水運用により必要水量を確保

表2 吉川浄水場被災時の受水市への供給水量

		供給水量(m ³ /日)
吉川浄水場(耐震化施設)		30,000
連絡管	馬淵浄水場から水運用	※1 27,800
	水口浄水場から水運用	※1 11,700
受水市への供給可能水量合計(最大水量)		※2 69,500

※1：連絡管で通水できる最大水量

※2：吉川地区受水市が必要とする水量:64,330m³/日以上を確保

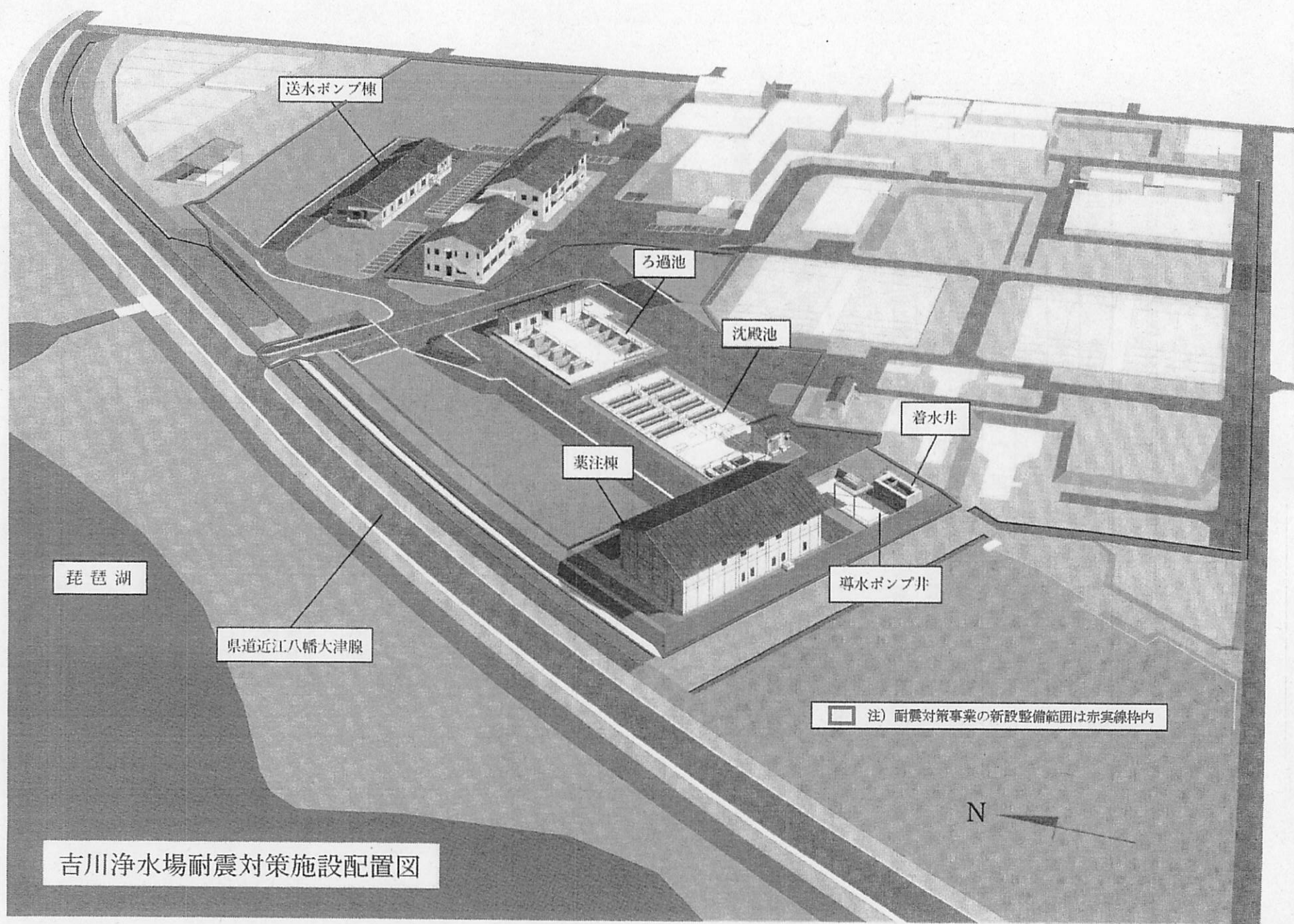
3. 耐震対策の概要

表3 吉川浄水場耐震対策施設諸元

	概要	備考
施設規模	給水量 30,000m ³ /日	
浄水処理方式	凝集沈殿+急速ろ過方式	
液状化対策	地盤改良	
配置	吉川浄水場内用地	
総事業費	約96億円(10%税込み)	既設施設耐震補強費用を含む

4. 今後の予定

令和元年度(2019年度)～令和4年度(2022年度) 4ヶ年で工事を実施



吉川浄水場耐震対策施設配置図